

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4271402416
法人名	社会福祉法人 新切福祉会
事業所名	グループホームゆうか
訪問調査日	平成 21 年 1 月 14 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 24 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271402416
法人名	社会福祉法人 新切福祉会
事業所名	グループホーム ゆうか
所在地 (電話番号)	長崎県南島原市有家町尾上2896-2 (電話) 0957-82-6272

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号
訪問調査日	平成21年1月24日
評価結果報告日	平成21年4月22日

【情報提供票より】(平成 20 年 4 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 10 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 8.3 人	

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独 <input type="checkbox"/>	新築 <input checked="" type="checkbox"/> 改築 <input type="checkbox"/>
建物構造	木造コロニアル葺 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有() 円	無 <input checked="" type="checkbox"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(平成 20 年 4 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2		5 名	
要介護3	7 名	要介護4		3 名	
要介護5	名	要支援2		名	
年齢	平均 87.5 歳	最低 79 歳		最高 96 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田循環器科内科医院・永田内科泌尿器科医院・池田医院・上田歯科医院・吉田歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

眼下には海が広がり、雲仙の山を背景にしたのどかな場所にあるこのホームは、敷地内には保育園があり、昼間園児が遊びに訪れ、歌やお遊戯など利用者には披露するのがほぼ毎日の日課になっており、利用者の顔もほころび笑い声が聞こえていた。利用者は敷地内から出たところにある店へ買い物に行ったり、近くのじけもん市などにも日常的に出かけている。毎週日曜日は、ドライブの日と決めて外出する機会を設けている。ホームの庭には畑があり個々に野菜、花を作っており、収穫した物は、食卓にのり、利用者の楽しみとなっている。また、地域の方との交流もあり、イチゴ狩りや野菜の差し入れなどもあり、逆に利用者が収穫した野菜などのおすそ分けもしている。職員は利用者のペースにあわせ、在宅時の生活に少しでも近づけるように心がけて対応をしており、全体から穏やかな雰囲気が感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員全員で取り組み、改善に努めている。勉強会などにも課題として取り入れ、マンネリ化しないように努力している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各自で自己評価に取り組み、それを管理者が取りまとめ、ホーム全体の自己評価として実施した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヵ月に一度、市の会議室を借りて、行っている。会議室を借りることにより、行政へのアピールにもつながると考えている。会議では、運営、外部評価の報告など密に協議している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月家族へ、写真と手紙を送っているほか、ホームページを開設し、家族にパスワードを発行して個人の状況が閲覧できるようにし、好評を得ている。意見等の書き込みも自由にできるよう配慮している。また、家族が面会に来た際には、職員は遠慮せず話してもらいように心がけており、玄関には、質問箱も設置しているほか、メールアドレスも公表しており、家族からの意見が遠慮なく言えるように様々な手段を工夫している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	管理者自ら、地域の消防団に入団している。地域の行事には積極的に参加し、地域の方々と顔見知りになっている。近くの店に買い物に出かけたり、隣近所の方とも作ったものを互いにやり取りしたりと日常的に交流を行っている。小中学校の体験学習の受け入れも行っているほか、近くの特別養護老人ホームの行事にも参加し、交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

↑ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭のくつろぎと家族のいたわり」という理念がリビングに掲げてある。家庭とは一番大切にしたいところ、くつろぎとは少しわがままに自由に、家族のいたわりとはホームが第2の家族になれたらという思いがこめられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議や日々の話の中で理念についての意識を持つように努めている。一人ひとりを大切に、その人らしく毎日を過ごせるようにケアのあり方を常に考えて振り返りを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者は、地域の消防団に入団している。地域の行事には積極的に参加し、地域の方々とも顔見知りとなっている。小中学校の体験学習の受け入れも行っているほか、近くの特別養護老人ホームの行事にも参加し、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は全員で取り組み、自分たちのケアのあり方の振り返りの機会となっており、マンネリ化しないように配慮して行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月おきに開催しており、ホームの事業内容や、取り組み、外部評価の結果報告などの説明を行い、出席者からの意見を生かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から、市役所、福祉事務所などへの行き来はあり積極的に行政との関わりを持っている。会議などを開催する場合は市役所の会議室などを借りて行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一人ひとりの家族へ、写真と手紙を送っている。又ホームページを開設し、パスワードを発行して家族だけが見ることのできるページを作り、いつでも見られるようにしてあり、家族からはいつでも顔が見られていいと好評である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られたときに、職員は遠慮せず話してもらいように心がけている。玄関には、質問箱も設置しているほか、メールアドレスも公表しており、家族からの意見が遠慮なく言えるように様々な手段を工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今のところ異動は、ほとんどない。離職者も少ないため利用者へのダメージはない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のために、管理者が講師となり勉強会をするなど意欲的に取り組んでいる。研修会なども積極的に参加し、終了後は、報告会をしている。特別養護老人ホームへ研修に交代で参加し、技術面などケアに関する研修も取り組んでいる。月1回の会議においても勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のさまざまな関連組織との関わりを積極的に行っている。近隣のグループホームとの交流も行い、自分達のケアを振り返る機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	担当のケアマネジャーや、家族とともに見学してもらい、不安を持たずにその場にいられるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事づくりでは、利用者、職員が一緒になっておしゃべりをしながら、和気藹々と過ごしていた。利用者ができることを進んで行っており、職員に対してこうした方がよいなどとアドバイスする様子も窺えた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者が自分の思いを自然と言える雰囲気を気がけており、利用者のちょっとしたしぐさや、言葉にも耳を傾け寄り添う職員の姿が窺えた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月ごとに見直し、毎月の職員会議や毎朝のミーティングでも常に話し合っている。利用者の意見や家族の意見を聴き、職員全員が把握できるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画がきちんとケアに生かされているか、利用者の状態に即しているかのチェック表があり、毎日記録をしっかりとつけることで見直しがスムーズにいくよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望を叶えるために、買い物や美容院への外出、市外の病院への受診なども対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては、利用者が在宅で生活されていた頃のかかりつけ医に受診できるよう配慮している。受診が困難な利用者には、往診を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に家族へ説明を行い、実際にそのような状態になったときは再度家族、かかりつけ医と相談をしながら、希望に応じて終末期まで支援を行う方針である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者の立場に立ったケアを心がけ、排泄時の声かけも耳元で行うなど利用者が気兼ねしないような配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースにあわせ、職員はホームの業務におわることがないように共有スペースの掃除などは、夜勤帯で行い、利用者が自由に好きなことができるように見守りや、支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ができるような例えば米ときや調理の準備、野菜を切ったり味付けなどをしてもらっていた。米ときは人気があるため、順番表を作成しトラブルがないよう工夫がしている。利用者が作った野菜の収穫があれば、それを使ったおかずを作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿った順番での支援がなかなかうまくいかなかったが、順番表を作り、誰でもわかるようにしたところゆっくと楽しんでもらえるようになり、仲の良い方同士で入浴する利用者も出てきた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前、野菜づくりや、花づくりなどをしていた方が多いため、ホームの庭を畑にしたところ、希望者が多く、名前をつけてそれぞれ耕し野菜、花など作られている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の商店まで歩いて買い物に行ったり、近くの特別養護老人ホームのデイサービスに知り合いを訪ねて行ったりと希望にそった支援がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者は自由に入出入りできるようになっており、玄関が開けばわかるように、ユニット毎にチャイムの音を変えてすぐ気づくように配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者は、地域の消防団に入っており、職員は大村の消防学校に宿泊研修に行って講習を受けている。ホーム内でも避難訓練に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や量などは一人ひとりに応じて工夫していた。法人内に栄養士がおり、献立はチェックをもらっている。水分補給も職員が声かけをして行っていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、くつろげるソファがあり利用者は自分の好きな場所に座っている。利用者の手づくりの人形や作品なども飾っており、利用者が思い思いに居心地よく過ごすことのできる工夫をしている。		廊下に作品などの掲示物があったが、利用者の目線には高く、見上げることにより、後ろにそる姿勢になるため転倒の恐れがあるのではないかと。利用者が見やすいように下に下げると自分の作品を見る楽しみができるのではないだろうか。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や調度品が置かれ、自分の作った作品などを飾り、自分の部屋として居心地のよい生活ができている。		